

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第3分科会 第5回会議
2 開催日時	令和2年7月30日（木曜日） 14時00分～16時00分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館5階 第1会議室
4 出席者又は欠席者名	<p>姫路市総合計画策定審議会委員 第3分科会 委員 10人中 8人（2人欠席）</p> <p>姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 3人</p>
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（5人） 傍聴人（1人）
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 審議 3. その他 4. 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開会 (14:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、定刻となったので始めさせていただく。本日は大変お忙しい中、今月15日に開催した第4回会議に続いてご出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまから姫路市総合計画策定審議会第3分科会第5回会議を開催する。 ・分科会としての会議開催は、今回が最後になる。これまでの審議を踏まえて、皆様それぞれのお立場からご意見を頂ければと思っているので、今日もよろしく願います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・欠席委員等確認 ・ここからの進行については井上会長に願います。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・15日に前回の会議があり、いよいよ大詰めである。ご協力のほどよろしく願います。お手元の資料が足りない方や、配付された当日資料をお持ちでない方はいないか。では、よろしく願います。
分科会会長	<p>2 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告（第4回会議における委員等意見への対応について）を確認させていただく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料説明。 <p>[説明資料] 当日資料1 第3分科会第4回会議 意見一覧</p> <p>当日資料2 「健康福祉分野目標 命・くらしの支え合い」修正案</p> <p>当日資料3 「政策1 地域に根差したきめ細かな福祉の充実」修正案</p> <p>当日資料4 「政策2 いきいきと暮らせる障害福祉の充実」修正案</p> <p>当日資料5 「政策4 健やかな成長を支える子育て環境の充実」修正案</p> <p>当日資料6 「政策5 健康で安心な市民生活の充実」修正案</p> <p>当日資料7 「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」修正案</p>

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議から時間がない中、事務局で分科会の意見や他の分科会からの意見をしっかりと調整していただき、今のようなご報告を頂いた。いかがか。 ・特に意見がないようであれば、審議に入る。
分科会会長	<p>3 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料1 教育分野 分野目標（案）・政策（案）」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料説明。[説明資料] 資料1 教育分野 分野目標（案）・政策（案）
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は当日の資料も多いので、よろしくをお願いします。 ・では、資料1、教育分野の分野目標から審議したいと思う。ご意見はあるか。「生き抜く力の育成と歴史文化の継承」を分野目標とし、背景については高等教育も入れ込んでいただいたところで、そのような部分について順序性とか全体像が変化しているところがある。 ・右のほうに資料をつけているのが、夢や希望を育む取組の展開、それから生涯学習の関連施設、多彩な歴史文化遺産ということで、今まで検討してきた部分も深めながら、事務局のほうで分野目標を確認していくときに必要なところが抜粋されている。 ・特にご意見がなければ、先に政策へ進み、また確認したいところがあればご意見を頂くという形にさせていただいてよろしいか。では、進める。 ・資料1-1、政策1「魅力ある教育の推進」、ここは「目指す姿」というところの文言が追加されている。本日は、「目指す姿」を実現するための方向性、これを行動指針として表現したいという事務局のお話があった。「人」「地域」、「活力」、「土台」というそれぞれの集約する部分と、アからケの行動指針についても丁寧に整理していただいていると思う。まず、方向性についてはいかがか。 ・今回は、ここに高等教育を入れられたことによる変化というものもあるかと思う。これまでのこの分科会で議論してきた「現状と課題」のところを、

事務局	<p>内容として事務局で出しているかと思うが、それを踏まえて「目指す姿」を実現するための方向性という項目で入れていただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日、6月20日にタウンミーティングをさせていただき、学生の方から、コロナ禍の中で学生に対する支援を考えているかという質問があった。国の制度を活用しつつ、市でも奨学金等を用意していると答えたところである。 ・この教育のところについて、資料1-1の「現状と課題」の丸の一つ目の波線を引いている「災害時などの非常事態」、これがコロナを想定している。今回のコロナ禍を受けて、大学でもオンライン授業をされていると思うし、あるいは義務教育、高校についても、まだまだ課題は多いが、ウのところICTを活用した授業形態も整えていく形で方向性として、コロナ禍のことも踏まえまとめている。それも踏まえてご議論いただければと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から追加を頂いた。前回、健康福祉分野のときにも、現状から、そのような新しい未知の病気や大規模災害は、安全安心分野を中心に記載していただいているが、関連が強いところは少し表現があってもいいのではないかというご意見があった。そうしたところから、「災害時などの非常事態」という表現で教育分野の中の「現状と課題」のところにに入れていただいたという話である。それとつながって、やはり教育分野、特に小中の教育機関で今の子どもたちへの学習環境に、ICTを活用していくことを追加することで、将来的にこのような非常事態があったときに、教育の継続、質の保障が担保されていくのではないかということで、市の政策の中にそのようなものを入れていると解釈したが、それでよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。そのとおりである。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・これから学生がどのように活動、活躍していくかが重要な問題になってくる。また、姫路市に学生がとどまってくれることが一番活性化に役立つと思う。これから姫路に来て学んだ学生をどれだけ姫路市が取り込んでいくかというところをもう少し入れてもらえればいいかなと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、大学と地域との人的なつながりの促進などである。企業・団体の役割ということで、大学が企業・団体に入るかどうか分からないが、学生を地域になじませるようなことを促進する。もしくは「企業・団体に期待すること」で、「職場見学や職場体験を通じて、子どもたち」とあるが、子どもたちだけでなく、学生も踏まえた表現にするなど。学生が子どもに入るかどうか分からないが、もう少し学生の部分も入れられるとよいのではないか。この子どもたちというのは「トライやる・ウィーク」のような感じか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうイメージが入っている。教育分野ということなので、大学生までの子ども、学生を対象にしている。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・それをうたうことができるのはこの分野かなと思う。産業分野になるのかどうか分からないが、ここで一つ入れてもいいかと思う。どうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と地域との関わりという部分については、今のところ少し触れているが、言われるような学生に着目した地域への還元という部分は少し書けていないかなと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のご意見は、今回、高等教育機関まで入れてくださっているというところから、研究分野とかだけでなく、学生自身がしっかりこの地域に愛着を持ち、かつ定着していただけるような視点から、企業・団体との連携も含めて学生など年齢の上の人たちへの部分をしっかり明記してはどうかというご意見である。 ・他にご意見はないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の質問と関係するが、土台のキの「学びを支える教育環境の充実」の中の2つ目に、「学生の様々な状況に対応した奨学金制度により」云々とある。姫路市独自の制度にはどのようなものがあるか。例えば、今、コロナで学生の状況が厳しくなっていることを踏まえて、市として独自にそういう支援ができる制度はあるか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市独自の奨学金制度がある。種類としては、一般奨学金、連合婦人会奨学金、播戸奨学金、海外留学生奨学金の4種類である。対象としては、市内の居住者、市内の大学に在学する者で成績優秀な者という条件と、あと経済的理由により就学が困難な者というような条件がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは公的な制度になるのか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市が独自に、いわゆる国など団体がされているものにプラスするものと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これは姫路市独自の奨学金制度である。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、コロナは現実の課題なので、すぐに対応はできにくいと思うが、コロナの影響を踏まえた対応は市でも検討されているか。途中経過でも結構なので、もしそういうのがあれば教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の方への支援として、今回のコロナ禍でバイトができなくなった、両親が仕事を失った等で、就学が難しい学生に対して、市内に居住している学生や市内の大学に在学している方に対して、今回の6月補正で議会に承認いただいて、一律3万円の支援をしている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・特に追加のご意見がなければ、次の政策に移ってよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・一つよろしいか。策定審議会の第2分科会の委員から、この教育分野に関してご意見を頂いているので、皆さんにお知らせする。 ・「リカレント教育の重要性がうたわれているが、オンライン配信についても言及する必要があるのではないか。ポストコロナで大学のネット配信が活発化すると思われるし、今後の大学の大きな役割の一つはリカレント教育であるので」ということで、教育分野にそのようなことが記載されているかという確認の意味でのご意見を頂いている。 ・こちらについては、資料の「現状と課題」のところ、丸の下から2つ目

分科会会長	<p>に、「社会人の学び直し（リカレント教育）を含む人材育成や、産官学連携の推進などを通じて、地域社会の持続的な成長に重要な役割を担うことが求められています」ということで、大学の役割としてリカレント教育というのも大きな役割として位置づけられていると記述している。</p> <p>・それを受けて、方向性としてははっきり見えにくいかもしれないが、エのところにつながるが、先ほど補足説明したとおり、「大学等の高等教育機関が行う多様な人材の育成や」の中に、リカレント教育を含めてのニュアンスで「多様な人材」の育成を入れているので、実際の事業としては、エのところのリカレント教育を促進するようなことがぶら下がってくるとご理解いただければと思う。</p> <p>・高等教育機関、大学というと、大学自身の自治の問題もあるので、市の立場で踏み込んで書ける部分と、連携しながら市の活力というところに大学等の高等教育機関と一緒にできるところを探っていくのかなと私自身は思う。</p>
分科会副会長	<p>・ICTの環境整備をするのは当然と思うが、国ではGIGAスクールという構想を打ち出している。今考えているのは2030年の世の中を見据えて計画することだと思うが、GIGAスクールの構想も踏まえながら考えているという理解でいいか。</p>
事務局	<p>・今年度中に子ども1人1台のパソコン環境を整えるなど、GIGAスクール構想を踏まえながらICT教育を進めている。</p>
分科会会長	<p>・社会情勢だったり国の方針だったり、教育の方向性というものつつながら、市のほうでも具体的にいろいろ計画を進めていただいているということかと思う。</p>
分科会副会長	<p>・方向性にのウの「生きる力を備えた子どもの育成」のところについて、異議があるわけではないが、「生きる力」にかぎ括弧をつけるかつけないかといった議論はあったか。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事務局のほうでは、ない。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ここの「自ら学び、考え、より良く問題を解決する」云々というところは、いわゆる文科省の「生きる力」という言葉の意味である。あえてここは、姫路市のそういうものがあつたとしても、「生きる力」という姫路市独自の考え方なのか、文科省が示している「生きる力」というものを踏まえた子どもの育成なのか、そこの解釈を教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 調べるので時間をいただきたい。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> もう1点。特別支援教育の充実のところ、今日配付された資料ではカのところにあるが、ここの3行は送付されたものと変わっていないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 変わっていない。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの説明の中に、口頭でインクルーシブ教育の説明があつたので、そこは理解できたが、文科省のインクルーシブ教育、要するに共生社会実現に向けて、インクルーシブ教育をどうやって推進し、実現していくかについて、兵庫県でもその取組を示されている。県の教育方針を踏まえながら、市の教育の在り方を考えられていると思うが、特別支援教育の充実の中にインクルーシブ教育のことについて触れておいたほうがいいのではないかと思う。この先10年間の方針を考える際に、共生社会の実現を目指して、全ての子どもが何らかの支援を必要としているわけなので、そのような言葉を表現できないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けてというようなことか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> 「インクルーシブ教育」というような言葉も含めて、何か表現できないか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今の「一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援」という形では、その辺りが読みにくいということか。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実の中で、特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズには、個別の支援計画、個別の指導計画が当然要ると思うが、インクルーシブというのは特別な配慮が必要な子どもの支援だけではなく、障害のあるなしにかかわらず、どの子どもにも支援が必要だという趣旨である。その中で、どうやって共に生きていくかというところに焦点が当たっていると思う。特別支援教育の中にインクルーシブ教育や共生社会の実現ということも含まれているので、特別支援教育を軽視するという意味では全くない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・2点目の意見について説明する。まず、姫路市の総合計画に基づいて作成している分野別計画である姫路市教育振興基本計画というものがある。その中の第2期振興基本計画において、特別支援教育の充実として、委員のご指摘のあった「共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育のさらなる充実を図ることを目的に、合理的配慮と基礎的環境整備について検討を進める」と明記している。こちらの総合計画のほうには言葉としてインクルーシブ教育は入っていないが、分野別計画の中にはしっかりと明記している。 ・1点目の「生きる力」の使い方について、ご指摘のとおり、姫路市の教育基本計画でも文言中にかぎ括弧がついているものもある。市長部局でまとめている教育大綱では、表現としてはかぎ括弧を取った状態にしている。どちらにするか、検討の時間を頂ければと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・整合性をとっていただくということによろしいか。では、時間の関係もあるので、「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」について説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当日資料7より教育分野1を説明。 <p>[説明資料] 当日資料7 期待すること一覧</p>

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・文言の表現の仕方や、少し追加していただくところもご説明いただいた。 ・では、次に移りたい。資料1-2の政策2「いきいきとした生涯学習社会の実現」についてだが、「目指す姿」に「充実した生涯学習機会の下」という言葉が追加されている。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・このデータは、何回目かの会議で確認したような記憶があるが、「生涯学習をしない理由 上位5項目」、これはいつのデータか分かるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度である。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それは記載しないということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・他のデータの表示の仕方との整合も含めて、そこは統一したいと思う。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・去年から参加して、前段階は分からないが、「目指す姿」で「充実した生涯学習機会の下、生涯学習により得た成果を」云々と書いてある。これは生涯現役で自分を高めるという意味だと思うが、方向性をみると、方向性の「地域の教育力の向上と子どもの健全育成」の部分で、地域の子どもの地域で見守りましょうという内容になっている。この辺が「目指す姿」と、実現するための方向性が違っているというのではないが、説明不足かなというのがある。例えば、下の「期待すること」の地域コミュニティのところ、「青少年の見守り活動や非行防止活動などに取り組みましょう」とあるが、これと生涯学習がどう関係があるのか。「目指す姿」の中に、地域の子どもは地域で守る意識を高くするというようなことを入れたらどうかと思う。生涯学習の機会とその辺のつながりが分かりにくい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらの政策については、今言われたように、内容が2つあり、生涯学習の部分と子どもの健全育成の部分である。中間報告のときには、「目指す姿」の下に「目指す姿」を説明する文章が入っていた。健全育成の部分を読ませていただくと、「家庭の教育力を向上させるとともに、青少年の交流と

	<p>活動の促進や、学校・家庭・地域の連携により子どもの健全な成長を支えていく」という説明があって、そのときには恐らく今言われたような疑問はなかったかと思う。確かに今私も読んでみると、「目指す姿」の中に健全育成という部分を読みにくいかなと感じるので、そこは修正させていただく。</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局のほうで、今回の政策の資料の整理の段階での確認事項というところも含めて追加いただけるということをお願いする。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・1点だけ。イの「生涯学習の機会の充実」の内容で、前の関連データの「身近なところに学習する場がない」というのが7.9%あるが、この辺はどういった状況でこうなっているのか。公民館などいろいろな場があるはずなのにこういった意見が出るのは、何をもって学習する場がないという意見が出ているのか、説明いただけたらと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・データ自体は国のデータで、姫路市の調査結果ではないので、どういふところかは分からない。姫路市の公民館でしている講座が、年配の方向け、あるいは平日にやっているの、働いている世代の方が利用しやすい環境にないのかなということも含めて、これはまだ実現していないが、オンラインで講座を発信するようなことも含めて、生涯学習機会の充実という形で整理させていただこうと考えている。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・国のデータをここに載せるのが適しているかどうか。これは国の政策を作ろうとしているわけではない。また、これは国のデータだから市は関係ないというのであれば、最初から何のためにここに持ってきたのかなと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・関連して、同じデータで気になったのは、「生涯学習をしない理由」のグラフで、平成30年の内閣府の調査が出ているが、この結果は生涯学習をしたことがない707人の回答結果である。そういう意味からすると、生涯学習そのものの捉え方が18歳以上の3,000人を対象にした調査なので、捉え方がはっきりしていないのではないかというのが一つ。

<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、資料に姫路市内における生涯学習機関の利用というのがあるが、例えば好古学園大学校は卒業生として600何人と挙げられているが、上の生涯学習大学校は在籍者数で挙げられている。その辺りはなぜか。好古学園の在籍者数は2,000人を超えていると思う。だから、若い人の生涯学習の捉え方と、高齢者が考える生涯学習の捉え方にかなり幅があるのではないか。そういう点で、この資料の示し方はどうかと思う。 ・もう一つは、それと併せて、障害者の立場で意見を言わせてもらうが、生涯学習機会が提供されているとはいうものの、例えば「現状と課題」の中の学習関連施設の老朽化が挙げられているが、公民館をとってもエレベーターがあるのは1か所だけである。例えば、生涯大や好古学園大にも車椅子の方がおられるが、実際問題として、学校のステージに上がれない。そうすると、ステージを中心にした文化行事に参加できない。そういった意味からすると、満遍なく生涯学習の機会が保障されているかという、そうはなっていないと思う。そこら辺りのことをもう少し考えていただきたい。これからの取組、施策もあるが、公民館にしても公共施設にしてもやはりバリアがすごく大きい。10年後を踏まえて、その辺りを積極的に開拓していけるような施策、方針を考えていただけたらと思う。 ・ありがとうございます。この政策は「いきいきとした生涯学習社会の実現」ということだが、生涯学習自身もやはり世代によって捉えるイメージが随分違うというご意見を頂戴したし、資料については、姫路市でアンケートやいろいろなことをなさっているというところから、少しご検討を頂けたらというご意見もあったと思う。 ・そして、当初の背景というか、この分野を見ていったときには、皆さんが活性化して使っておられる学習の場と、もう少し応援の要るようなところもあるかなというのも「現状と課題」のところに出ていた。だんだん整理が進んでいったところで、再度ご意見を頂戴できるかなと思う。いかがだろうか。 ・健康福祉の分野でも、例えば生涯現役という表現で「生涯」という言葉を使っておられた。ここではそういった一定程度充実期になられた方も含めた、その方たちの学習の機会である。教育、就労等を終えられた方が、若い
--------------	---

事務局	<p>世代と生き生きと交流しながらの教育の場というところもイメージしていたかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そして、実際に共生社会というところから言うと、今の施設等が使いつらいという現状もイメージして、生涯学習というのを捉え直していく必要があるというご意見に感じた。事務局のほうで意見はあるか。 ・ご意見のあった公民館等のバリアフリーは、施設の規模、敷地との相談になるが、欠かせない観点である。その他の大規模集客施設である美術館等についても、老朽化対策を行う中でバリアフリーということは常に念頭に置いて進めていきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これ自身がいわゆる総合計画の分野であるので、これにひもづけされた各分野別計画が教育分野でもたくさんある。それとつながりながらこの分科会での意見が見えてくるとありがたいと思っている。 ・他に、実現するための方向性など、政策2でのご意見はあるか。 ・それでは、「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」について説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当日資料7より教育分野2を説明。 <p>[説明資料] 当日資料7 期待すること一覧</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。同時に見ると分かりやすい。 ・では資料の1-3、政策3に進み、政策3「歴史文化遺産の保存・継承と活用」に入る。ここも「目指す姿」のところが追加、表現が変わっている。「姫路城をはじめとした文化財や、地域に伝わる伝統行事など、多彩な歴史文化遺産が未来に継承されている」という文言に修正がされている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「現状と課題」の丸の4つ目に、史資料の保管等について書かれている。例えば「その歴史的文書を適切に保存・継承するための保管場所の確保や文書管理」云々となっているが、もう少し踏み込んで、例えば公文書館の建設という形にはならないか。それは踏み込み過ぎかもしれないが「保管場

事務局	<p>所」といえばいろんなところがある。私は図書館の委員をさせてもらって、地下を見に行ったりするが、非常に劣悪な環境の中で資料が保管されている場合もある。特に姫路には文化的な価値の高いものが多いので、「保管場所の確保」という抽象的な言い方でなく、もう少し踏み込んだ表現があってもよいのではないか。昔から公文書館の建設は要望として出ていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その部分に関しては具体の方向性が見えていない状況なので、それを踏まえてここ10年に対応できるような形で、今回は場所の確保という表現にさせていただいている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・いかがだろうか。今までの議論の中でも、丸の2にある後継者不足問題などで歴史的文化遺産が散逸する等の話がでていた。これだけの地域の中には大切なものがたくさんあるという話が随分出ていたように思う。この具体の表現が難しいのかもしれないが、方向性と「現状と課題」の中と今後つなげていくところが、課題の表現にもよるとは思うが、今後の方向性の中に入ったほうが良いということである。ここのところが専門人材の確保育成や担い手育成という表現、それから学ぶ場を作る、守り伝える体制という文言になっているが、体制づくりについてももう少し前を向いてほしいという思いが委員の中にあることを事務局にお伝えするという辺りによるしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後10年の中で、歴史伝承の保管場所を含めて、いろんな公共施設の機能のあり方を見直していくようになるかと思う。その中で、既存施設の中で空きが出てくるかもしれないし、逆に足らなくなるかもしれないので、その辺は今後の施設の考え方を整理する中で結論が出てくるかと思う。 ・保管場所の確保が必要ということは総合計画の中うたっているので、今後、具体の方向性が見えてきた中で、例えば保管場所をつくることが必要となれば、基本構想にぶら下がる、毎年改定の実施計画の中に具体的に書き込んでいくことになる。方向性としては確保が必要であるという認識でとどめておきたい。

<p>参与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路で歴史文化とは何かといえば、国宝姫路城と播州の秋祭りだと思う。「目指す姿」に「姫路城をはじめ」と入っているし、「地域に伝わる伝統行事」、これは多分祭りが一番に挙げられると思う。 ・そこで、「土台」のウの部分で、歴史遺産の有形と無形のもが一緒になっているが、これは分けたらどうか。ほかの分野では「土台」がたくさん分かれているし、姫路城といった有形のもの、無形のものについて分けて記載したらいいと思う。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有形文化財と無形文化財のような、違いのあるものを整理したらどうかという参与のご意見である。その辺りはどうか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化遺産の中には今言われている無形文化財も含まれていると思うが、言葉を再度確認した上で、含まれていないのであれば分けて書くように整理したい。
<p>参与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関連データに「日本遺産認定数」を書いてあるが、姫路を代表するものも記載いただければ、わかりやすい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースもあるので追記する。
<p>参与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題の丸の2つ目のところで、全国的に文化財の専門職員は減っていると思うが、姫路は全国と比べる中で更に少ないのか。専門職にはいろいろなタイプの仕事があると思う。私も詳しいことは分からないが、その辺りの担い手が不足しているというざっくりとしたイメージがある。姫路が全国の中でも非常に少ないのか教えていただきたいのと、そういう中で今後「人、地域」というところで専門の人材を育てていくところにつながっていくのか、教えていただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員、公務員の関係だが、文化財を発掘、保存する専門職員が姫路市も不足しているので、そういうところを示している。また、歴史文化遺産を

<p>参与</p>	<p>保存・継承する担い手の不足というのは、文化財自身を扱われる方の担い手のことで専門職員とは違う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある人を探すという意図があるのかなというところもあるが、育成していくということが今後の方向性に入っているので、いいかと思う。 ・表現をどうしたらいいのか分からないが、市民の方はこの部分を読んで分かるだろうか。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に総合計画になってくると、この段階のものが活字で出てくる形になる。そういったときに分かりにくいなとか、両方に取れるなというところも確認しながら再検討していく必要があるのかなと思う。ずっと見続けてきた中では納得していたところを、実際市民に表現したときに十分ご理解いただけるだろうかという部分があるかもしれない。最終の文言整理のときによろしく願います。 ・一つ、私からよろしいか。このあたりの話をしているときに、この地域の子どもたちが姫路の歴史遺産なり伝統行事に触れて、そういったことが市民を育てていくという話があったように思う。その点は「人」というところに、文化遺産、伝統行事も入っているが、もう少し記載があったらいいのかなと思う。これから10年というときに、姫路の中にあるものを大事にしながら育てていくという、そういう話が何となく薄まっているような気がした。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が言われる観点とずれるかもしれないが、政策1の方向性、アの丸の2つ目に、子どもの教育という観点から、2行目のところに「祭り等の地域行事への参加などを通じて、社会の中で自らの役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するために必要な能力や考え方を育てる」と入れている。地域の祭りや行事に参加して人間としての人格を育てるとともに育てていくというニュアンスで、こちらのほうで少し触れている。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今言われているところにも入っていると思うが、やはりわざわざ教育分野に歴史文化遺産と特化して出している。やはりお城やお祭りなど、この地域独自の愛すべきというか誇りである歴史文化遺産の保存・継承、活用

<p>参与</p>	<p>だから、もう少し子どもたちが活用できるところも含めて追加があるとうれしいという思いで今の質問をした。</p> <p>・第1分科会で、祭り主体で作ったらいいのではないかという意見があった。そこまでしなくてもいいが、姫路の総合計画なので、姫路城だけではなく、姫路というものをもっと出してもいいのではないか。それが総合計画に出れば、もっとそれが前に進むと思う。姫路のいい部分をここに出せたらよい。</p>
<p>分科会会長</p>	<p>・今後、パブリックコメント等もあるし、いろんなご意見がつながりながら、事務局で最終整理をしていただくが、こういった意見があるということもお含み置きくださいということである。</p>
<p>事務局</p>	<p>・そのようなご意見については、先日の第1分科会でも姫路という大きな自治体の中で、珍しく自治会の加入率が高く、まとまっているのは祭りが大きく関わっており、地域のアイデンティティみたいなものができているので、祭りを中心とした総合計画みたいなものを考えてはどうかと要望されたことと思う。</p>
<p>参与</p>	<p>・祭りに関しては様々な意見があると思う。私自身は祭りがあるから姫路から出られないが、その中でも自分の村の祭りが好きだというのが大前提にある。祭りは「台場差し」もいいし「台場練り」もいい。そういったことで、教育の一環で姫路全体の祭りをみんなが知るといえるものがあるといい。自分の村、町の祭りだけが好きだという誇張をしないような、そういった教育をしていただいたら姫路の中の祭りの見方が変わってくるのではないかな。</p>
<p>分科会会長</p>	<p>・ありがとうございます。そういった意識なり価値観を育てていくのは、教育の考え方なり関わり方もあるかということなので、この教育分野でも意見として出てきている。</p> <p>・この部分について、「市民、地域コミュニティ、企業、団体に期待する</p>

	<p>こと」の説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当日資料7より教育分野3を説明。 <p>[説明資料] 当日資料7 期待すること一覧</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。「市民、地域コミュニティ、企業・団体の役割」という形で、当日資料7の最後のページのところが今日の教育分野の政策、「目指す姿」、それからそれぞれの役割の整理のところであるので、全体を見ていただいて意見はあるか。 ・今まで話してきた全体像がここで見えるかと思う。各委員さん、追加発言等は特にないか。戻られても結構である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料で差し替え資料を頂いたが、「土台」の「より良い学校環境の整備」のところの学校トイレの洋式化・ドライ化というのはどんなことか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・和式便器がついているところを洋式便器に替えていくという意味である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーではないが、洋式であるということか。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで和式を洋式にするということである。バリアフリー化というのはフラットにするのがバリアフリー化で、今、姫路市が、小学校校舎の1棟の例えば左右にトイレがあれば、片方だけでもバリアフリー化と洋式化をしようと率先している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ある施設の改良のときに私は洋式化がよいと思っていたが、座るのが嫌だから、和式を残すかみたいな考えがあった。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・追加はあるか。どこの部分でも結構なので、確認をしていただき、全体を通してご審議を頂いても良い。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど1公民館しかエレベーターがないという話があったが、今、姫路

事務局	<p>市は、3 公民館、4 公民館と、毎年何個かの公民館に設置しているので、多分早々に市内ほとんどがつくようになると思う。</p> <p>・大体、公民館は建設後25年を過ぎる頃から大規模改修に入っているので、大規模改修のときに必要なところはエレベーターをつけている。まだついていないところも大分あるかと思うが、今後つけていく形になっている。</p>
分科会会長	<p>・ありがとうございます。具体の説明を頂いた。いかがだろうか。全体を通したご意見で結構である。</p> <p>・少し戻るかもしれないが、政策1の「魅力ある教育の推進」の2つ目の丸、今回入れていただいて、初めて見たので気になるというレベルであるが、「高等教育機関が、多様な」というところで、たしかこちらだと専修学校や短大も含んでおられたので、「研究活動など」だからいいのかと思ったが、あまりに研究活動を前に出し過ぎでないかとは思った。</p> <p>・大学は研究活動が当たり前だが、行政の計画なので、市民の方はどう思われるだろうか。私は大学に所属しているので大変ありがたいが、「多様な教育の機会を提供するとともに、自らの強みや特色を活かした」の次に「教育」を入れたほうがどの所属の方も全部含まれてよいと思った。</p>
事務局	<p>・資料1－1の「目指す姿」の丸の2つ目のことか。</p>
分科会会長	<p>・そう、2つ目の文言である。今日初めて見せていただいたので気になった。</p>
事務局	<p>・これは今回、生涯学習関連のほうから教育関係に持ってきて追加した文章であるので、今のご指摘に関しては「研究活動など」という「など」の中にそういった専修学校の技術の習得みたいなのも含まれているニュアンスで書いている。</p>
分科会会長	<p>・「研究活動」の前に「教育」という言葉を入れておいたほうが良いと思う。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育研究活動」ということか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのほうが開かれている感じで、わかりやすいと思った。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これは今回新しく入れたものなので、検討をさせていただきたい。 ・もし時間があるようなら事務局からお話したい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当日資料7だが、個々の文章表現については皆さんご確認いただいたと思う。冒頭で説明があったように、もともとは「期待すること」ということで、「～しましょう」という表現で書いていた。それが、ほかの分科会で「もう少し主体性を持たせたほうがいい」、あるいは「期待すること」という言い方が、我々としてはあまり押し付けにならないようにと思ってそうしていたが、逆に委員の方々から、そっこのほうが押し付けられているような感じがするというご意見があって、今回「役割」という言葉に変えたのと、「～します」としているが、また別の分科会では逆に「～します」というほうが責任を感じる、できなかったときのことを危惧されるようなご意見もあって、「役割」という言葉と、それから「～します」という文末表現について、この分科会としてどういったご意見かというのをお聞かせいただければと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様、いかがだろうか。これは行政の計画なので、市、市民、地域コミュニティ、企業・団体というものが本当に共に動いていく姿を描いていきたいというのが事務局の思いである。私たち自身もいろいろな立場で参画しているので、行政の方だけでお作りになっているわけでもなく、行政が責任を持たれる部分とそれぞれが責任を持って共に動くことを考えたとき、表現の仕方はいかがだろうか。ご意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は個人的には「～ます」よりも「～しよう」のほうが良いと思う。

分科会会長	・他の委員は、いかがか。
委員	・私は、やることの内容によって、「しましょう」とか「します」とかいう、両方で書かれたほうが読みやすいというのがある。そのときそのときの言葉の感じで使い分けられるとよいのではないか。
分科会会長	・立ち位置をどうするかによっても違う。
事務局	<p>・立ち位置はあくまでも行政と市民の形、パートナーシップ、協働である。ある部分では市民、地域コミュニティ、企業・団体の方が主体的に動いていただく部分もあるし、協働でさせていただく部分もあるので、画一的にする必要はないのかと思う。表現も「～します」ではなく、「努めます」なら少し柔らかくなるし、その辺、ご意見を踏まえながら。今委員が言われたように、書いてある内容によって「します」でもいいものもあると思う。</p> <p>・当日資料を2枚めくっていただくと、A3で各分野の政策の調整、政策の見方という説明文書をつけている。これの右下に「役割」と書かせていただいて、「ここにはこういうことを定めますよ」ということを説明書きで、最終的な製本のどこかに入れて、一応統一して書いているという形にさせていただこうかと思っている。</p>
分科会会長	・他の委員で何か追加はあるか。
委員	・個人的には文言はどちらでもいいと思う。
分科会会長	・どちらでもいいと言う意見も大切な意見で、お任せというところもあるかなと思う。こういった文言はなかなか難しい。
委員	・姫路市の人口密度を見ると尼崎の10分の1ぐらいだ。人口規模は53万ぐらいで、非常に希薄な地域なので、遠隔教育を姫路市は促進すべきではないかなという気がする。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関係の話題があまり出ていなかったが、政府はGo To トラベルなど、そういうキャンペーンを行っており、コロナ感染者もどんどん広がるだろうと思う。これから先遠隔のZoomやSkypeなど、そういったものを使った教育を姫路では促進していく必要があるかなと考えている。 ・そういうコロナウイルス関係の話も、ここの教育の場面でも一言入れられたらどうか。恐らくコロナウイルスの感染者はこの1～2年では終わらない、そういう事象のものである。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。他にないだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の役割だから「です」、「ます」は要らないのではないかなと思う。前の「期待すること」なら「このようにしましょう」とか、投げかけでいいと思うが、役割だったら、紋切り型でいいのではないかな。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・紋切り型だと失礼かなと思い、できるだけ方向を大事に考えようかなということもあり、そうしている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この辺り、最終的にどういったところが最後の決定権になるのか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この「市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」というのは全ての分野の政策に関わることである。なので、最終的には正副会長会議を8月31日の全体会議より前に開催させていただき、その正副会長会議の場でそれぞれの分科会の意見を出していただいて、最終的にまとめたと思っています。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その会議に参画をさせていただくので、今日のそれぞれのご意見を受けて大切に進めていこうと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「役割」というように示されたほうが、10年の計画で市民と行政とが一体になっていくという意味で、私はいいと思う。先ほど他の委員が言われていたように、「役割」は「役割」でいいが、「一緒に皆さんやりましょうよ」

委員	<p>という、「～しましょう」という表現については、私は賛成である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、PTAや子ども会が任意団体なのと少子化の影響もあり「入らない」と言われる方が多くおられる。その中で教育分野政策1の、「市民」のところに「家庭で、子どもの生活や健康、学習習慣づくりに取り組みます」と書かれているが、保護者の方はお父様もお母様も両方とも働かれていて、家庭でじっくり子どもと向き合う時間が減っている。その中でなかなか親の教育という時間が取れなくなってきているのではないかと思う。例えば企業などにも働きかけて、家庭での子どものための時間を確保できる就業体制が少しでも作れたらよいと思った。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・やはりお立場で、こんなふうになっていったら地域が非常に活性化して、子どもたちも豊かになっていくというようなところである。 ・それから、先ほど言われたコロナの関係は、実は前回審議した健康福祉なのだろうと意識している。また、防災・安心安全でも入れていただいております、今の教育の中でも、入れる必要があるのではないかというご意見を頂戴したというところである。 ・それでは、私のほうで進めさせていただいたところは終了したかと思うが、事務局のほうで追加等はないか。
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。この第3分科会の所掌である健康福祉分野と教育分野について、まだまだ意見もあると思うので、追加のご意見等は、来週の8月4日の火曜日までにファクスもしくはメール等でご意見を頂ければ反映させて頂く。そのご意見と本日のご意見を踏まえて、修正の方向性を決めさせていただく。 ・先ほど事務局から発言があった「役割」のところの取扱いと、ほかのご意見については、8月21日の正副会長会議で最終決定をする。第3分科会の案と他の3つの分科会の案をまとめて全体会議へ提案させていただく。 ・第3回の全体会議は、ご案内のとおり来月の末、8月31日である。午後2時からホテル日航姫路光琳の間において開催する。皆様には、それまでに

事務局	<p>分科会としての最終案をご覧いただこうと思う。</p> <ul style="list-style-type: none">・その後、8月31日の全体の答申案をご覧いただき、最終ご確認いただいた後に大丈夫であれば、審議会会長から市長へ答申いただこうと思っている。よろしく願います。以上である。 <p>5 閉会 (16:00)</p> <ul style="list-style-type: none">・それでは、以上をもって第3分科会第5回会議を閉会させていただく。会長初め委員の皆様には、昨年来、長期間にわたり熱心にご審議いただき、誠にありがとうございました。これからも姫路市政への変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げて、これまでのご協力に重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。
-----	---